



Red Hat Satellite 6.15

リリースノート

追加された機能、非推奨となった機能、削除された機能、既知の問題、および主な参考資料について

Red Hat Satellite 6.15 リリースノート

追加された機能、非推奨となった機能、削除された機能、既知の問題、および主な参考資料について

Red Hat Satellite Documentation Team
satellite-doc-list@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、Red Hat Satellite の製品情報、新機能の概要、および既知の問題を説明します。

目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	3
第1章 変更の概要	4
第2章 新機能	6
第3章 バグ修正	8
第4章 テクノロジーレビュー	9
第5章 非推奨の機能	10
第6章 削除された機能	12
第7章 既知の問題	13
第8章 主な参考資料	14
8.1. RED HAT SATELLITE とは	14
8.2. サポートされるアーキテクチャー	14
8.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール	14
8.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント	17
8.5. 製品ライフサイクル	17
8.6. コンポーネントのバージョン	18
付録A コンポーネント別のチケットリスト	19

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに対するご意見をお聞かせください。ドキュメントの改善点があればお知らせください。

- 特定の部分について簡単なコメントをお寄せいただく場合は、以下をご確認ください。
 1. ドキュメントの表示が **Multi-page HTML** 形式になっていることを確認してください。ドキュメントの右上隅に **Feedback** ボタンがあることを確認してください。
 2. マウスカーソルを使用して、コメントを追加するテキストの部分を強調表示します。
 3. 強調表示されたテキストの下に表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。
 4. 表示される手順に従ってください。
- Bugzilla を介してフィードバックを送信するには、新しいチケットを作成します。
 1. [Bugzilla](#) の Web サイトに移動します。
 2. Component として **Documentation** を使用します。
 3. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に向けたご提案を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
 4. **Submit Bug** をクリックします。

第1章 変更の概要

Red Hat Satellite の 6.14 リリースには、以下の変更が含まれています。

カスタム製品の有効化と Simple Content Access

- カスタム製品はデフォルトで無効になりました。
- ホストとアクティベーションキーのコンテンツアクセスについては、変更はありません。これは、Simple Content Access の使用の有無にかかわらず組織でアップグレードを行う場合に、適切な enabled/disabled のオーバーライド設定をリポジトリに追加することで確実に設定できます。
- このアプローチを採用することで、組織で Simple Content Access にスムーズに移行できます。

コンテンツビュー管理の改善

- コンテンツビューに新しい変更がある場合、**Versions** テーブルで、コンテンツビューのバージョンにインジケータアイコンが表示されます。監査レコードが削除された場合など、Satellite が変更の状態を判断できなかった場合、アイコンは灰色になります。
- コンテンツビューに監査された変更が含まれておらず、コンテンツビューを公開する必要がない場合は、コンテンツビュー公開ウィザードにメッセージが表示されます。
- コンテンツビューにフィルターが適用されている場合、**Versions** テーブルで、コンテンツビューのバージョンにインジケータアイコンが表示されます。

ライフサイクル環境の割り当ての改善

- 特定の Capsule のライフサイクル環境にホストを割り当てることができるのは、Satellite から同期するライフサイクル環境が Capsule に含まれている場合のみです。
- 特定の Capsule に同期されていないライフサイクル環境に対してホストを一括で割り当てようとすると、タスクは失敗し、この Capsule に依存するホストに関するエラーメッセージが表示されます。
- 個々のホストを別のライフサイクル環境に再割り当てする場合は、そのホストの Capsule に同期されているライフサイクル環境のみを選択できます。

Satellite API の Ansible ロール

- Ansible ロールの割り当てを変更するたびにすべての Ansible ロールを定義しなくても、単一の Ansible ロールをホストまたはホストグループに追加または削除できます。

定期的なリモート実行ジョブと同期計画

- 拡張 cron 行を使用して、週や月の特定の日などを指定できます。

レポートテンプレートの改善

- **Host - Applicable Errata** および **Host - Registered Content Hosts**: 新しいオプションを使用して、レポートに該当するすべてのエラータをリストするか、インストール可能なエラータのみをリストするかを選択できます。

- **Host - Applied Errata:** レポートにエラータのリリース日が含まれるようになりました。

グローバルホスト登録フォーム

- 以前に誤って必須としてマークされていた登録フォームのオプションフィールドからアスタリスクが削除されました。

Apache がデフォルトでシステム全体の暗号化ポリシーを使用

- Satellite Server のシステムレベルで暗号化ポリシーを設定でき、Apache 設定はデフォルトでそのポリシーを継承します。詳細は、[Red Hat Enterprise Linux 8 のセキュリティー強化のシステム全体の暗号化ポリシーの使用](#) を参照してください。

ドキュメントの改善

- [コンテンツの管理](#) の [パッケージの依存関係の解決](#) に関する説明を改善しました。
- OpenSCAP の設定およびスキャンに関するドキュメントは、[Red Hat Satellite の管理](#) から、新しいガイドの [セキュリティーコンプライアンスの管理](#) に移動しています。
- アップグレードおよび更新ガイドは2つの別個のガイドに分かれました。
 - [Red Hat Satellite 6.14 へのアップグレード](#)
 - [Red Hat Satellite の更新](#)

第2章 新機能

ここでは、Red Hat Satellite 6.14 で導入された新機能と主な機能強化について説明します。

垂直ナビゲーションの変更

このリリースでは、次の垂直ナビゲーションの変更が加えられています。

- 垂直ナビゲーションの上部にある新しい検索バーにより、メニュー項目をすばやく見つけることができます。検索バーをクリックするか、**Ctrl {nbsp}Shift{nbsp} F** を押すと、検索バーにフォーカスできます。
- 垂直ナビゲーションの一部のメニュー項目は、展開可能なサブメニューにグループ化されました。たとえば、**Monitor** の下の **Config Management** および **Report Templates** は **Reports** にグループ化されています。展開するにはサブメニューをクリックします。メニュー項目の順序に変更はありません。
- **Monitor** や **Reports** などのメニューおよびサブメニュー項目は、カーソルを合わせたときではなく、クリックしたときに展開されるようになりました。

Jira:SAT-20947

Web UI の Satellite EOL 日

Satellite のバージョンの EOL 日が 6 カ月以内の場合、管理者ユーザーは Satellite Web UI でライフサイクル終了 (EOL) 日を確認できるようになりました。この情報は警告バナーとして表示されます。Satellite のバージョンが EOL 日を過ぎると、警告バナーがエラーバナーに変わります。バナーを閉じると、1 カ月後または EOL 日に再び表示されます。

Jira:SAT-20990

Satellite はホストの登録時にアクティベーションキーを自動選択します。

Satellite Web UI で **Hosts > Register Host** を使用してホストを登録し、登録フォームで選択した組織とロケーションで使用できるアクティベーションキーが1つだけの場合、Satellite はアクティベーションキーを自動的に選択します。

[Bugzilla:1994654](#)

特定のバックグラウンド動作が失敗した後、Satellite はメール通知を送信します。

以前は、リポジトリ同期などのバックグラウンド動作が失敗した場合、ユーザーは Satellite Web UI にログインして失敗を確認する必要がありました。この更新により、コンテンツビューのプロモーションの失敗、コンテンツビューの公開の失敗、Capsule 同期の失敗、リポジトリ同期の失敗といったイベントに関するメール通知を設定できるようになりました。

通知の受信を開始するには、Satellite Web UI にログインし、**Administer > Users** に移動します。必要なユーザーを選択し、**Email Preferences** タブに切り替えて、必要な通知を指定します。**Email Preferences** タブの **Mail Enabled** チェックボックスが選択されていることを確認してください。アカウントが無効になっているユーザーは通知メールを受信しないことに注意してください。

Jira:SAT-20393

Satellite インストーラーが、最適なロギングレイアウトを自動的に決定するようになりました。

以前は、**--foreman-logging-layout** オプションを **satellite-installer** に渡して、Satellite ログのレイアウトを手動で設定する必要がありました。このリリースでは、レイアウトタイプを手動で指定しない場

合、**satellite-installer** が最適なレイアウトタイプを自動的に選択します。ファイルベースのロギングの場合、デフォルトでは **multiline_request_pattern** レイアウトが使用されます。journald へのロギングの場合、デフォルトでは **pattern** レイアウトが使用されます。必要なロギングレイアウトを手動で指定するには、**--foreman-logging-layout** オプションを **satellite-installer** に渡します。

Jira:SAT-20206

第3章 バグ修正

ここでは、Red Hat Satellite 6.14 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグについて説明します。

Concurrency level 設定

以前は、リモート実行ジョブのスケジューリングで使用される **Concurrency level** の設定が、常に正しく機能するとは限りませんでした。そのため、サービスが再起動するまでジョブがフリーズする可能性があります。このリリースでは、この問題は修正され、**Concurrency level** の設定が意図したとおりに機能するようになりました。

Jira:SAT-19794

ホストファクトを更新しても **host_updated** イベントがトリガーされなくなりました。

以前は、ホストファクトを更新すると、**host_updated** イベントが複数回トリガーされていました。これにより、登録された Webhook が、ホストファクトの1回の更新で複数回実行されていました。このリリースでは、ホストファクトを更新しても **host_updated** イベントはトリガーされません。ホストファクトが更新されたときに通知を受け取りたい場合は、新しい **host_facts_updated** イベントに Webhook を登録します。この新しいイベントは、ホストファクトの更新ごとに1回のみ Webhook をトリガーします。ユーザーが手動でホストを更新した場合は、**host_updated** イベントが引き続きトリガーされます。

Jira:SAT-20746

ホストを削除した時に Webhook から詳細情報にアクセスできるようになりました。

以前は、ホストを削除した場合、Webhook テンプレートではホストに関する基本情報しか使用できませんでした。このリリースでは、ホストを削除すると、Webhook テンプレートがホストの詳細情報にアクセスできます。

Jira:SAT-20745

第4章 テクノロジーレビュー

ここでは、Red Hat Satellite 6.14 で利用可能なすべてのテクノロジーレビュー機能のリストを提供します。

テクノロジーレビューに対する Red Hat のサポート範囲の詳細は、[テクノロジーレビューのサポート範囲](#) を参照してください。

Redis キャッシュ

Satellite に、**redis** を Satellite WebUI のキャッシュとして設定する機能が追加されました。Satellite Server に多数のホストが登録されている場合、または **extra-large** チューニングプロファイルを使用していて問題が発生している場合は、**redis** キャッシュを使用します。**Redis** キャッシュを使用するには、以下を実行します。

```
# satellite-installer --foreman-rails-cache-store type:redis
```

ファイルベースのキャッシュに戻すには、以下を実行します。

```
# satellite-installer --foreman-rails-cache-store type:file
```

Jira:SAT-18354

OpenShift 仮想化プラグイン

OpenShift Virtualization コンピュートリソースをテクノロジーレビューとして使用して、仮想マシンをプロビジョニングできます。

Jira:SAT-18663

OVAL / CVE レポート作成のサポート

Satellite に、Red Hat が提供する OVAL 標準データフィードを使用して、システムの脆弱性をスキャンする機能が追加されました。

foreman_openscap に、OVAL oscap スキャンをトリガーするために使用する OVAL コンテンツをアップロードするための API が含まれています。結果は CVE に対して解析され、Satellite に送信されます。その後、Satellite が管理対象ホストとそれに影響を与える CVE のレポートを生成します。

Jira:SAT-21011

カーネル実行 (kexec) テンプレート

PXE なしの起動方法が含まれるカーネル実行テンプレートです。

Jira:SAT-21012

第5章 非推奨の機能

このパートでは、Red Hat Satellite 6.14 で **非推奨** となった機能の概要を説明します。

非推奨の機能は、本製品の今後のリリースではサポートされない可能性が高く、新たに実装することは推奨されません。特定のメジャーリリースにおける非推奨機能の最新情報は、そのメジャーリリースの最新版のリリースノートを参照してください。

非推奨の機能のサポート状況は、Red Hat Satellite 6.14 では変更されません。サポート期間の詳細は、[Red Hat Enterprise Linux のライフサイクル](#) および [Red Hat Enterprise Linux アプリケーションストリームのライフサイクル](#) を参照してください。

現行および今後のリリースでは、非推奨のハードウェアコンポーネントの新規実装は推奨されません。ハードウェアドライバーの更新は、セキュリティー修正と重大な修正でのみ行われます。Red Hat では、このようなハードウェアの早期交換を推奨します。

パッケージが非推奨となり、使用の継続が推奨されない場合があります。製品からパッケージが削除されることもあります。その場合には、製品のドキュメントで、非推奨となったパッケージと同様、同一、またはより高度な機能を提供する最近のパッケージが指定され、詳しい推奨事項が記載されます。

katello-agent

katello-agent は非推奨となり、Satellite 6.15 で削除される予定です。今すぐリモート実行またはリモート実行プルモードに移行してください。移行せずに Satellite 6.15 にアップグレードすると、パッチ適用やセキュリティー更新などの重要なホストパッケージのアクションを実行できなくなります。リモート実行への移行の詳細は、[ホストの管理](#) の [Katello エージェントからリモート実行への移行](#) を参照してください。

Jira:SAT-18124

スナップショットベースのバックアップ

スナップショットベースのバックアップ機能は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

Jira:SAT-20862

非同期 SSH リモート実行モード

async-ssh リモート実行モードは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。Capsule と管理対象ホスト間の接続が不安定な場合、Red Hat は pull モードを使用することを推奨します。pull モードの詳細は、[ホストの管理](#) の [リモート実行用のトランスポートモード](#) を参照してください。

同時実行制御とタイムスパン

リモートジョブスケジューリングの同時実行制御とタイムスパンの設定は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

Append domain names to the host

Append domain names to the host 設定は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。FQDN (完全修飾ドメイン名) を使用してホストを識別してください。

Foreman フック

Foreman フック機能は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。この機能は、新しい Foreman Webhooks 機能に置き換えられます。ドキュメントはリリース時に提供されます。

Red Hat Virtualization でのプロビジョニング

Red Hat Virtualization (RHV) と Satellite の統合は非推奨となり、将来のリリースでは削除される予定です。RHV タイプの既存のコンピューティングリソースはすべて削除され、RHV に関連付けられているホストは切断されます。

Bootstrap.py

ホストの Satellite Server または Capsule Server への登録に **bootstrap.py** スクリプトを使用していましたが、グローバル登録テンプレートで作成した curl コマンドを使用するようになりました。

エンタイトルメント

エンタイトルメントベースのサブスクリプション管理は非推奨となり、将来のリリースで削除される予定です。サブスクリプションについては、管理者のエンタイトルメントエクスペリエンスを簡素化する Simple Content Access の代用が推奨されます。

Jira:SAT-21137

第6章 削除された機能

ここでは、Red Hat Satellite 6.14 で **削除** された機能をリストします。

Receptor ベースの Cloud Connector が削除されました。

Receptor ベースの Cloud Connector のサーバー側サポートは console.redhat.com で削除されました。ユーザーは RHC ベースの Cloud Connector を使用することが想定されています。現在 Satellite 6.9 以前のバージョンを使用されているお客様は、RHC ベースの Cloud Connector のサポートを提供する Satellite 6.10 以降のバージョンにアップグレードされることを推奨します。

Jira:SAT-20819

監視対象のファクトのグラフの表示が削除されました。

Satellite Web UI で、**Monitor > Facts** の **Fact Values** テーブルから **View Chart** 機能と **Actions** 列が削除されました。

[Bugzilla:1972308](#)

削除された API エンドポイント

次の API エンドポイントが削除されました。

- `katello/api/package_group`
- `katello/api/organizations/:organization_id/products/:product_id/sync`

Jira:SAT-20654

Time span 設定

リモート実行ジョブのスケジューリングから **Time span** 設定が削除されました。Satellite でのリモートジョブの実行負荷を調整する場合は、代わりに **Concurrency level** 設定を使用します。この設定により、ジョブごとに一度に実行できるタスクの数が制限されます。

Jira:SAT-20749

第7章 既知の問題

ここでは、Red Hat Satellite 6.14 の既知の問題について説明します。

すべてのデータが削除された無効の Puppet を再度有効化することはできません

Puppet プラグインを **-f, --remove-all-data** 引数で無効にした場合に、再度プラグインを有効にしようとすると、`satellite-maintain` が失敗します。

[Bugzilla:2087067](#)

HTTP プロキシを使用する代替コンテンツソースで HTTP プロキシを削除できない

代替コンテンツソースで **Use HTTP Proxy** フラグを設定解除しても、トラフィックが引き続き HTTP プロキシを通過します。回避策として、代替コンテンツソースを破棄して再作成します。

[Bugzilla:2162458](#)

外部データベースのアップグレードとインストールに `hstore` エクステンションが必要

外部データベースを使用する場合、以下を実行する必要があります。

- 6.14 にアップグレードする前に、**postgresql-contrib** パッケージをインストールし、PostgreSQL で **hstore** エクステンションを作成する必要があります。
- 新しい Satellite 6.14 をインストールする前に、**postgresql-contrib** パッケージをインストールし、**hstore** エクステンションを作成する必要があります。

エクステンションが手動で作成されていない場合、アップグレードまたはインストールでエラーが発生します。

```
permission denied to create extension "hstore"
```

このエラーが表示された場合は、続行する前に **postgresql-contrib** パッケージをインストールし、**hstore** エクステンションを作成します。

詳細は、オンラインネットワーク環境での Satellite Server のインストールの [PostgreSQL のインストール](#) および Red Hat Satellite 6.14 へのアップグレードの [接続している Satellite Server のアップグレード](#) を参照してください。

[Jira:SAT-21163](#)

第8章 主な参考資料

8.1. RED HAT SATELLITE とは

Red Hat Satellite は、物理環境、仮想環境、およびクラウド環境でのシステムのデプロイ、設定、および保守を可能にするシステム管理ソリューションです。Satellite では、一元化された単一のツールを使用して複数の Red Hat Enterprise Linux デプロイメントのプロビジョニング、リモート管理、モニタリングが可能です。

Red Hat Satellite Server は、Red Hat カスタマーポータルおよびその他のソースからのコンテンツを同期し、詳細なライフサイクル管理、ユーザーおよびグループのロールベースのアクセス制御、サブスクリプションの統合管理、高度な GUI、CLI、または API アクセスなどの機能を提供します。

Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Satellite Server のコンテンツをミラーリングして、さまざまな地理的なロケーションにコンテンツを共有します。ホストシステムは中央の Satellite Server からではなくローカルの Capsule Server からコンテンツおよび設定をプルできます。また、Capsule Server は Puppet サーバー、DHCP、DNS、TFTP などのローカライズされたサービスも提供します。Capsule Server を使用すると、環境内でマネージドシステムの数が増えたときに Red Hat Satellite を簡単にスケールリングできます。

8.2. サポートされるアーキテクチャー

Satellite でサポートされるアーキテクチャーの概要は、[サポート対象のクライアントアーキテクチャー](#)を参照してください。

8.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール

このセクションでは Red Hat Satellite のインストールに必要なリポジトリについて説明します。

Red Hat Satellite は、コンテンツ配信ネットワーク (CDN) からインストールすることができます。CDN からインストールするには、オペレーティングシステムのバージョンとバリエーションに合った正しいリポジトリを使用するように **subscription-manager** を設定します。

CDN リポジトリを有効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --enable=reponame
```

CDN リポジトリを無効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --disable=reponame
```

以下の表は、Satellite Server、Capsule Server、および Satellite Maintenance のリポジトリのリストです。

表8.1 Red Hat Satellite Base、Capsule、Maintenance、および Utils for RHEL 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite 6.14 for RHEL 8 x86_64 (ISO、RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-6.14-for-rhel-8-x86_64-{isos, rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Capsule 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-capsule-6.14-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Maintenance 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-maintenance-6.14-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Utils 6.14 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-utils-6.14-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

以下の表は、Red Hat Satellite Client のリポジトリのリストです。

表8.2 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 6

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 Server 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-server-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 for System Z 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-for-system-z-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.3 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 7

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Desktop 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-desktop-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Workstation 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-workstation-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for Scientific Computing 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-hpc-node-satellite-tools-7-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for System Z 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-system-z-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - TUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-tus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - AUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-aus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.4 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 <arch> (RPMS、Debug RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64: Telecommunications Update Service (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-tus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Advanced Mission Critical Update Support (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-aus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.5 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 9

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 <arch> (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

8.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント

Satellite のデプロイメントと必要なデプロイメントワークフローに関するドキュメントは、[Satellite の概要、概念、デプロイメントの考慮事項](#)を参照してください。

8.5. 製品ライフサイクル

Red Hat Network Satellite と Red Hat Satellite のライフサイクルフェーズの概要および本製品のサポート状況については、[Red Hat Satellite の製品ライフサイクル](#) を参照してください。

8.6. コンポーネントのバージョン

Red Hat Satellite は、複数のアップストリームプロジェクトを組み合わせたものです。含まれるメジャープロジェクトと、Red Hat Satellite の各メジャーおよびマイナーリリースに含まれるプロジェクトのバージョンの詳細は、[Satellite 6 Component Versions](#) を参照してください。

付録A コンポーネント別のチケットリスト

参考のために、Bugzilla および JIRA チケットのリストをこのドキュメントに記載します。リンクをクリックすると、チケットについて説明したこのドキュメントのリリースノートにアクセスできます。

コンポーネント	チケット
Alternate Content Sources	Bugzilla:2162458
Fact	Bugzilla:1972308
インストーラー	Jira:SAT-20206 、 Jira:SAT-21163
ロギング	Jira:SAT-20206
プロビジョニング	Jira:SAT-18663
Puppet	Bugzilla:2087067
Registration	Bugzilla:1994654
リモート実行	Jira:SAT-19794 、 Jira:SAT-20749
アップグレード	Jira:SAT-21163
その他	Jira:SAT-20947 、 Jira:SAT-20990 、 Jira:SAT-20393 、 Jira:SAT-20206 、 Jira:SAT-19794 、 Jira:SAT-20746 、 Jira:SAT-20745 、 Jira:SAT-18354 、 Jira:SAT-18663 、 Jira:SAT-20654 、 Jira:SAT-20749 、 Jira:SAT-18124 、 Jira:SAT-20862 、 Jira:SAT-21137 、 Jira:SAT-21163